

研修会報告

令和 3年 10月 1日

文 責：岩木啓太

研修会テーマ「輸血検査の基本を学ぶ -試験管（カラム）内の反応をイメージする-」

開催日時 令和 3年 10月 11日（金） 17：30 ～ 19：00

会 場 web 開催

司 会 岩木啓太

生涯教育点数 専門 20 点

参加者 会員参加者 40 名 入会申請中会員 0 名 非会員 0 名 賛助会員 1 名

学生 0 名

合計 41 名

17:35~17:55

講演 1：「宮臨技精度管理調査結果から見る県内輸血検査の状況」

講師：東北大学病院 輸血・細胞治療部

岩木 啓太 技師

17:55~19:00

講演 2：「輸血検査における赤血球抗原抗体反応をイメージする

—試験管法、カラム凝集法の各特徴と検査上の注意点—」

講師：バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

カスタマーケア本部 診断薬 カスタマーサポート部

小黒 博之 先生

19:00 終了

内容

本研修会では、普段の輸血検査で実施している試験管法とカラム法の原理をより理解してもらえるように、「イメージする」というテーマで開催した。

宮城県精度管理調査の回答結果より、県内の施設では 9 割以上の施設が輸血検査を試験管法かカラム法で実施している背景があり、その両方を研修会の内容に盛り込んだ。

特に講演 2 では、多彩なイメージ画像により、抗原抗体反応の原理から抗体を介した赤血球凝集像のイメージ、検査手技上の注意点とその意義まで非常に分かりやすい内容だったと感じている。検査プロセス毎の意味をとらえ、試験管（カラム）の中の反応をイメージできることで、予期せぬ反応が検出された際に、結果の捉え方や問題解決のアプローチの仕方がスムーズになることが期待される。今後も、日常の輸血検査の参考や助けとなるような研修会を企画していきたいと考えている。